

日本の大学教育の未来を考える

—「大学入試のあり方に関する検討会議」の議論から—

学校法人関西大学理事長
芝井 敬司

目次

- I 大学入試のあり方に関する検討会議について
- II 言語と文化の多様性について
- III 英語万能論、英語帝国主義のひどさ
- IV まとめ

I 大学入試のあり方に関する検討会議について

令和元年11月、12月に発表された「大学入試英語成績提供システム」及び大学入学共通テストにおける国語・数学の記述式問題の導入見送りを受け、令和元年12月に文部科学大臣の下に設置。

テーマ

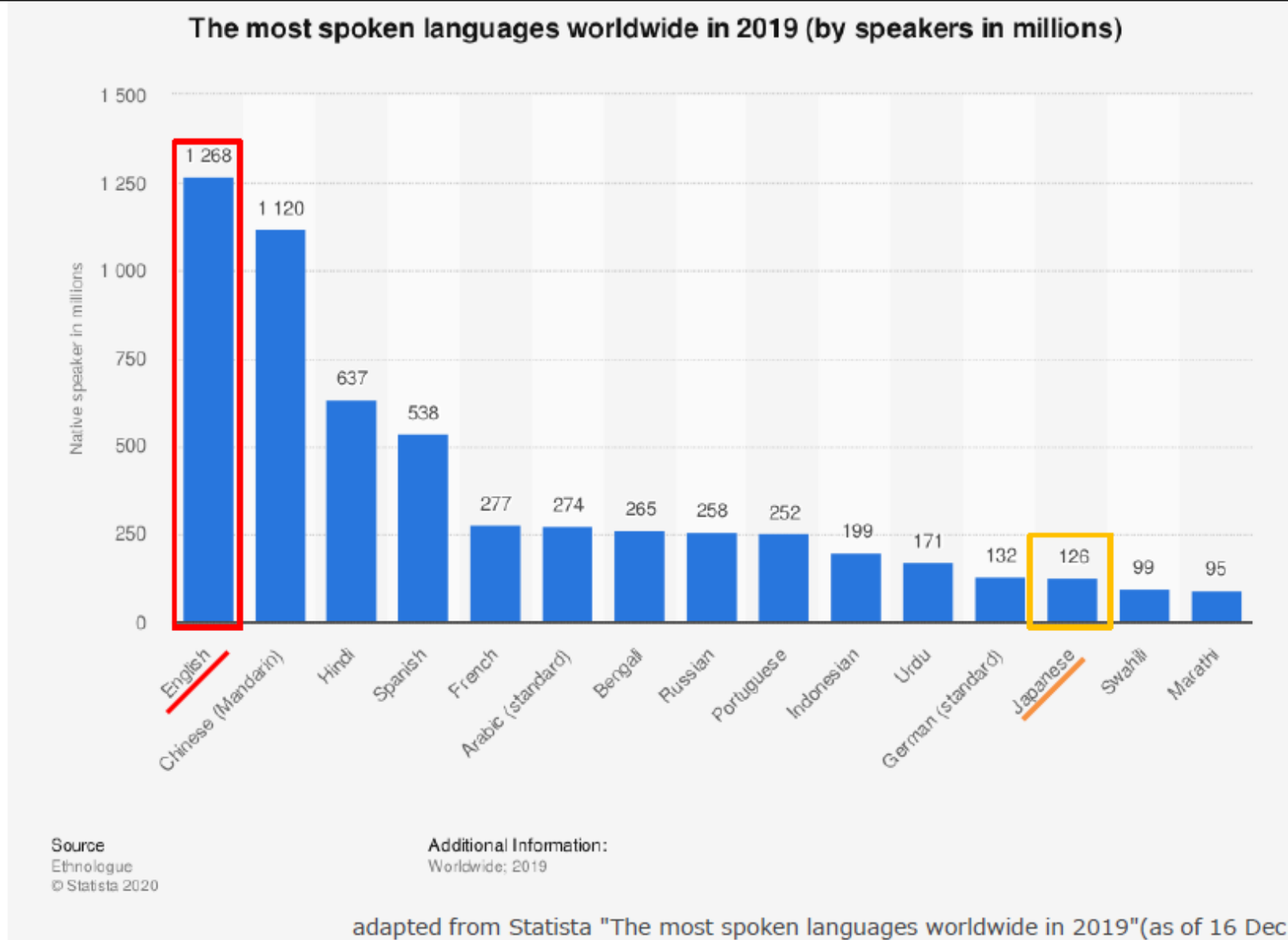
- (1) 英語4技能評価のあり方
- (2) 記述式出題のあり方
- (3) 経済的な状況や居住地域、障害の有無等にかかわらず、安心して試験を受けられる配慮
- (4) その他大学入試の望ましいあり方
 - ① ウィズコロナ・ポストコロナ時代の大学入試のあり方
 - ② 大学入学共通テストのあり方

○期 間: 令和2(2020)年1月15日(水)～令和3(2021)年6月30日(水)

○実施回数: 28回

世界で最も話されている言語

- 世界でも最も話されている言語は英語（12億6,800万人）。



adapted from Statista "The most spoken languages worldwide in 2019"(as of 16 Dec 2020)

URL: <https://www.statista.com/statistics/266808/the-most-spoken-languages-worldwide/>

世界で最も影響力のある言語

- 世界で最も影響力のある言語は英語であり、2050年においても同様。

Power Language Index ranking (top 10)

2016年

RANK	SCORE	LANGUAGE	NATIVE (MM)	GEOGRAPHY	ECONOMY	COMMUNICATION	KNOWLEDGE & MEDIA	DIPLOMACY
1	0.889	English	446.0	1	1	1	1	1
2	0.411	Mandarin*	960.0	6	2	2	3	6
3	0.337	French	80.0	2	6	5	5	1
4	0.329	Spanish	470.0	3	5	3	7	3
5	0.273	Arabic	295.0	4	9	6	18	4
6	0.244	Russian	150.0	5	12	10	9	5
7	0.191	German	92.5	8	3	7	4	8
8	0.133	Japanese	125.0	27	4	22	6	7
9	0.119	Portuguese	215.0	7	19	13	12	9
10	0.117	Hindi*	310.0	13	16	8	2	10

2050年

RANK	SCORE	LANGUAGE
1	0.877	English
2	0.515	Mandarin
3	0.345	Spanish
4	0.325	French
5	0.295	Arabic
6	0.242	Russian
7	0.155	German
8	0.149	Portuguese
9	0.138	Hindi
10	0.110	Japanese

* If all Chinese dialects/languages (Mandarin being the largest) are considered as one it would not change the rank ordering. However, if Urdu and Hindi – and all the Hindi dialects – are taken as one it would vault it past Portuguese and Japanese.

Table 1: Structure of Power Language Index

COUNT	GEOGRAPHY (22.5%)	ECONOMY (22.5%)	COMMUNICATION (22.5%)	KNOWLEDGE & MEDIA (22.5%)	DIPLOMACY (10.0%)
1	Countries spoken*	GDP (PPP)	Native speakers	Internet content	IMF
2	Land area	GDP/capita (PPP)*	L2 speakers*	Feature films	UN
3	Tourists (inbound)*	Exports	Family size*	Top-500 universities	WB
4		FX market*	Tourists (outbound)	Academic journals	Index of 10 SNOs ²
5		SDR composition*			

* Half weight within its opportunity; indicator weights are otherwise distributed evenly within each opportunity.

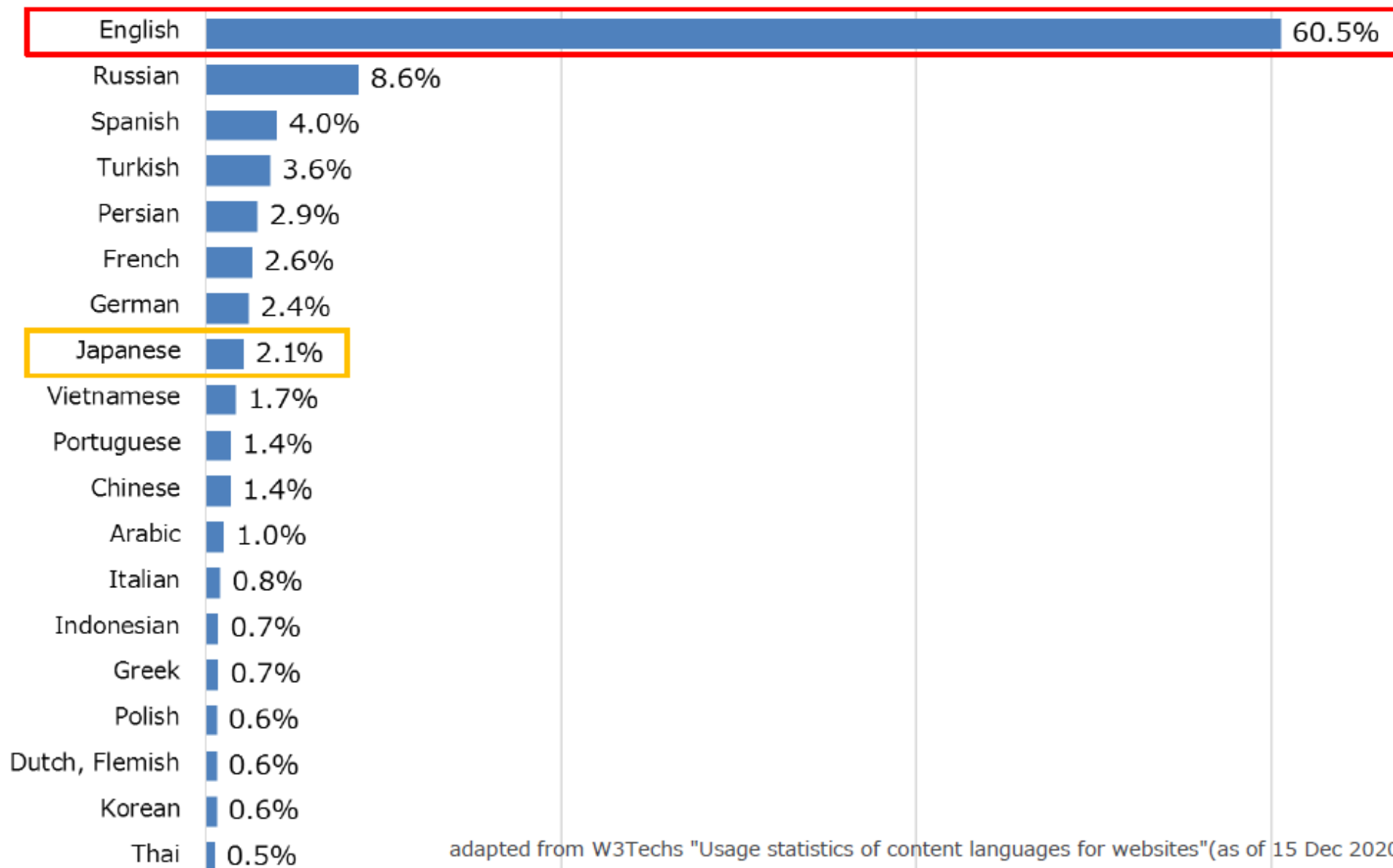
** Indicator variables that take on the value 1 if an official/working language of the institution and 0 otherwise.

adapted from Kai L. Chan, PhD "POWER LANGUAGE INDEX"(as of 8 Jan 2021)

URL: http://www.kailchan.ca/wp-content/uploads/2016/12/Kai-Chan_Power-Language-Index-full-report_2016_v2.pdf

ウェブサイトにおいて最も使用されている言語

- ウェブサイト上で最も使用されている言語は英語（60.5%）。

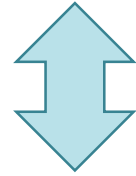


adapted from W3Techs "Usage statistics of content languages for websites"(as of 15 Dec 2020)

URL: https://w3techs.com/technologies/overview/content_language

検討会での議論（一部要約）

- ・英語は世界で最も話されて、最も影響力がある国際共通語である。
- ・例えば、ドイツに行ってもフランスに行っても、今、英語で通用する時代。英語以外の国際学会というのはいり得ない。文献についてもほとんど英語で発刊されている時代なので、少なくとも理系では英語力というのは大学教育をちゃんと世界に通用するような形で修得するには必要な技能。
- ・英語の能力が一番その後の能力に関係すると、IRの分析結果が出ている。
- ・教科として、英語が小学校から義務化されている以上、英語以外の語学を入れる余裕はない。



- ・大学それぞれの理念や教育方針に基づいてディプロマ・ポリシーが決まり、そこから、カリキュラム・ポリシー、さらにはアドミッション・ポリシーが決まる。大学それぞれの理念とか教育方針に基づいてディプロマ・ポリシーが決められていくので、もちろん英語がその中に入っている場合もあれば、入っていない場合もある。
- ・英語以外の外国語はいかに重要かということを知りたい、あるいは、英語だとか外国語だとかいう前に日本語の力がやはり必要だということに触れた上で、現実としてはリング・フランカとしての英語を一定、私たちは学ばなければならない。
- ・全体のスコアの低さも問題だが、高いレベルの英語能力を持つべき人が高いレベルに至っていないことも問題。大学生全体と高度人材に求められる英語力とは分けて整理すべき。

II

言語と文化の多様性について

ヨーロッパ連合EU(1993年11月成立)における統合と多様性の認識

「多様性のうちの(前提とする)統合」 United in Diversity

⇒ 多層的なアイデンティティ

原則、「言語と文化の多様性を堅持する」

「全加盟国の公用語をEUの公用語として認める」多言語主義 Multilingualism

⇒27か国24言語

「EU市民は母語以外に2つの言語を学習すること」

⇒教育における複言語主義 Plurilingualism の提唱

ユネスコの「文化的多様性に関する世界宣言」と「行動計画要旨」

「文化的多様性に関する世界宣言」 引用

- ・ 生物的多様性が自然にとって必要であるのと同様に、文化的多様性は、交流、革新、創造の源として、人類に必要なものである。この意味において、文化的多様性は人類共通の遺産であり、現在及び将来の世代のためにその重要性が認識され、主張されるべきである。
- ・ すべての人が各自で選択する言語、特に母国語によって自己を表現し、自己の作品を創造し・普及させることができ、すべての人がそれぞれの文化的アイデンティティーを十分に尊重した質の高い教育と訓練を受ける権利を持ち、すべての人が各自で選択する文化的生活に参加し、各自の文化的慣習に従って行動することができなくてはならない。

「行動計画要旨」 引用

5. 人類の言語遺産を保護し、可能な限り多くの種類の言語による表現、創造、普及のための支援を行う。
6. 母国語を尊重しつつ、教育のあらゆる段階において、可能なかぎり言語の多様性を奨励し、低年齢からの複数の言語学習を促進する。

文化的多元主義 Cultural pluralism

・文化とは何か

社会学・文化人類学

⇒「思考と行動の様式」

「マックス・ウェーバーとともに、人間は自分自身がはりめぐらした意味の網の中にかかっている動物であると私は考え、文化をこの網としてとらえる。」(C・ギアーツ)

⇒「私たちは、言葉のなかに産み落とされ、言葉のなかで育ち育てられる。」

産み落とされる個人にとって、言語は外在的で歴史的。長い時間をかけて集積されたもの。

母語 マザー・タング (mother tongue)

⇒「どういう言葉の中にどういう母語の中に生まれてきたかが、その人の出身・出自そのものであること。」(長田弘『読書から始まる』ちくま文庫)

「グローバル人材」という浅薄な表現

「世界で活躍する人」、「国際的舞台上でコミュニケーションできる人」、
「英語が喋れる人」

「人の成長」を鋳型に押し込める単純素朴な人間観とお題目・スローガン

情報通信技術ICTが決定的に重要、STEAM人材の養成、プログラミング教育が必要、
英語が喋れる国際人育成

⇒「私たちの言葉を豊かにすることこそが肝心」

日本語でものを考えられない人が、英語で論理的に思考できるのか。

日本語のプレゼンが下手な人が、英語のプレゼンが上手になるのか。

Ⅲ 英語万能論、英語帝国主義のひどさ

- ・「外国語」と書いてあると、ロシア語でもヒンドゥー語でもアラビア語でもマジャール語でもなく、当然のように英語のことだと受け取ってしまう人たち。
- ・日本人の英語は、これではダメだ。アジアでも最低。世界のトレンドに乗り遅れてしまうと叫ぶ人たち。
- ・「ビジネスは英語、学術も英語、ネット情報も英語、・・・。」

* 英語・・・ピジン、クレオール、リンガ・フランカ

ピジン・・・異なる言語の間に混合によって成立した共通語で、母語話者を持たない
クレオール・・・ピジンが母語話者を獲得することによって成立した言語

- ・英語がリンガ・フランカ(共通の母語を持たない集団内において意思疎通に使われている言語)として機能していることは当然了解している。だから大事なこともよく分かる。
しかし、英語の優位はたまたまの結果でしかない。人間にはそれぞれ母語があって、そのかけがえのない言語＝文化を基盤にそれぞれの社会が形成されていること、そして将来にわたって継承されるべき重要さを等しく有している。

言葉へのまなざしがないこと

「言葉＝コミュニケーションの道具」という貧しい言語観

- ・人の経験は、言葉によって理解され特定され表現され伝達され記憶される。
（自分が自らの経験を、残し伝える方法は、キーワードとストーリー）
- ・何語で考えるか⇒思考の道具

少数言語へのまなざしがないこと

- ・約6,000ほどの言葉・・・各民族・人間集団が長年の歴史の中で築き上げてきた文化とそれをささえる言語というものは、人間がもつ豊かな可能性の現れ。
- ・私たちは、日本語という言葉の中に生まれている。肝心なのは、どこの国の人かよりも、その人がどういう言葉のなかに生まれ、どういう言葉によって育てられ、育ってきたか。

「私たちの日本語」への尊敬がないこと

- ・明治以来の西洋近代化のプロセスは、当時の日本人が欧米の技術を積極的に取り入れたことによると言ってもよい。しかし、その受容過程では、大量の本が日本語に翻訳された。そのなかで、たくさんの新たな概念用語が、漢字の持つ表意機能と、かなの表音機能を組み合わせて、とうとうほとんどの日本語で科学技術を理解し教育することを可能にした。母語で自然科学、科学技術、そして広範な人文社会科学の世界も、基本的に母語によって、学び、考え、理解し、伝えることができる幸せを考えたことはあるのか。

* ボアソナード博士 明治初年に日本に招聘されたフランス人法学者

法政大、明治大、関西大の3大学連携協力協定

司法省法学校でボアソナードの薫陶を受けた若者が、明治10年代に創設した法律学校に淵源を持つ3大学

「自分はあなた方にフランス語で法律を教える。あなた方の多くは、やがて司法官として官職に就くだろう。しかし、それだけではもったいない。みんなは、ここで得た法律知識をぜひ日本語で多くの市民に伝え広めてほしい。」

* 高等教育政策(文科省)

日本の大学をグローバルな大学にするために、「英語で教育し英語だけで学位をとれるようにすべきだ」という愚策を推進している。

⇒これは発展途上国の発想。西洋列強の植民地になって、科学技術を含めた学術一般、中等教育以上の教育、大学をはじめとする高等教育、これらすべてが自身の母語ではカバーできないので、英語やフランス語などの旧宗主国の言葉を学ばなくてはならない、そうした事情がある。

* 大学入試のあり方検討会議

・新井紀子さんの指摘『AI vs 教科書が読めない子どもたち』

「英語やプログラミングじゃないですよ。大事なのは日本語の読解力です！

読解力がない人は、近い将来、AIに仕事を奪われてしまいます。」

- ・「リング・フランカとしての英語」を学ぶ意義はその通り。
しかしその時には、「なぜ英語なのか」という問いを避けることはできない。
- ・英語万能主義、英語帝国主義は、まったくおかしな主張。
そもそも文化的多様性に反する。
- ・私たちには、母語である日本語を豊かにし、次世代に伝える務めがある。
ナショナリズムを背景に言うのではなく、「文化の継承」、「多様性の確保」、
「アイデンティティと創造」という観点から。
- ・言葉や文化について関心を寄せ、多文化共生の社会を展望するうえで、母語以外の言葉
や文化に目を開き、相互に尊重しあう態度がもっとも大事。